朝日新聞
2014年（平成26年）
3月23日
日曜日

天気	6	9	12	15	18	21(%)	
名古屋						0	16 / 2
豊橋						0	18 / 3
岐阜						0	16 / 1
高山						0	11 / -4
津						0	16 / 3
尾鷲						0	17 / 2
浜松						0	17 / 3
東京						10	18 / 5
大阪						0	16 / 3

朝日新聞名古屋本社 発行所：〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3 電話：052-231-8131 www.asahi.com

12の春 決意のスカート

性同一性障害明かし中学へ

この春、岐阜市に住む12歳の小学6年生が門出を迎える。心は女性だが、体は男性という性同一性障害（GID）。中学校への進学を機に、自分らしく生きたい――。不安な気持ちを抱えながらも、両親や学校、友だちに支えられ、大きな一歩を踏み出そうとしている。これからはこう呼んでほしいと、「あおい」という名前を自分でつけた。4月から、セーラー服に袖を通す。

卒業式で着るブレザーとスカートを着て、鏡で確認するあおいさん＝岐阜市

35面に続く

新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738円（税込み 3,925円）、1部売り（税込み）朝刊 150円、夕刊 50円 第3種郵便物認可

これから私は「あおい」

性同一性障害 岐阜の12歳

1面から続く

「パパ、見て。似合うでしょ」

22日、岐阜市の自宅の居間で、あおいさん(12)はこの日買った黒いブレザーと赤いスカートを着て、父(46)と母(49)に披露した。25日の卒業式に着る洋服。「卒業式はやっぱり黒と赤でしょ」と目を輝かせた。

子どものころから、ピンク色やリボンのついた服がお気に入り。女の子と遊ぶことが多かった。

ニュースなどで性同一性障害（GID）を知っていた両親は「すんなりと受けとめられた」というが、いじめられるのではと、女の子のような格好で通学することには慎重だった。

高学年で転居すると、あおいさんは髪を伸ばし、キュロットなど女の子のような服装に。昨春、「中学校はセーラー服で通いたい」と両親に打ち明けた。

両親「個性の一つとして見て」

誰も知らない中学校で新たなスタートを切った方がいいのではないか。でも、話せば助けてくれる人も出てくるかもしれない。両親は悩んだ末、地元の中学校へ進ませることを決めた。小学校に、あおいさんの思いも伝えた。

学校や岐阜市教育委員会にとって初めてのケースだった。市教委や進学先の教員らを交えた会議を1年間続けた。あおいさんは昨年9月にGIDと診断され、病院とも情報を共有した。

あおいさんの同級生にどう伝えるかが課題だった。

学校側は昨年12月に2回、「人間と性」教育研究協議会の中村一恵さん(62)を講師に招いた。中村さんは言った。性別は男と女だけで切り分けられず、人の数だけ性がある、と。

卒業を前に、両親は同級生に向けて手紙を書いた。あおいさんがGIDだということ、本人の思いを最大限応援したいこと、個性の一つとして障害を見てほしいことなどをA4判2枚につづった。

同級生の「応援したい」に「ちょこーっと安心」

今月10日の授業。6年生の担任がそれぞれの教室でこの手紙を読み上げた。同級生は感想を書いた。「生き方を応援したい」「バカにされたり笑われたりしてたら守りたい」。陰で悪口を言っていたことを告白し「あんなことを言わなければ良かった。これからは絶対しない」という子もいた。

校長(58)は「あおいさんが壁にぶつかる時は必ずある。周りの子たちは、そのときに何らかのアクションを起こせるようになってほしい」と願う。

中学への進学は「すっごい心配」とあおいさん。同級生だけでなく、ほかの学年の生徒がどうみるか。いじめられないか。ただ、両親の手紙を読んでもらい、同級生の反応も知り、「ほんのちょこーっとだけ」安心したという。

「あおい」という名前は、「セーラー服を着るなら、いままでの名前はヤダ」と自分で考えた。テレビで見た女優の姿や、言葉の響きにひかれた。両親の手紙で初めて明かした。あくまで通称で、戸籍名は変わらない。卒業証書に書かれた名前はそのままでも、式では「あおい」と呼んでもらい、証書を受け取る予定だ。

ピアノの練習が好きなあおいさん。小学校の卒業式を心待ちにしている＝岐阜市

両親から同級生への手紙（要約）

同学年の皆さんへ

私たちの子は性同一性障害を持って生まれ、生きてきました。親として、本人がしたいことを、最大限応援していこうと思います。

人間は誰もが個性を持っています。背が高い、低い。運動が得意、苦手。そういう個性と同じように、障害のことを見てもらえたらと思います。

名前も男の子らしい名前をやめて、「あおい」という名を名乗っていきたいと言っています。私たちは生まれてきたときに名付けた呼び方に今も愛着がありますが、本人が決めたなら認めてあげたいと思っています。これからは「あおい」と呼んでもらえませんか。

あおいはきっと、障害のことで傷つき、壁にぶち当たるときが何度もあると思います。そのときに支えになるのが、今の皆さんの姿だと思います。くじけそうになったとき、きっと皆さんのことを思い出すと思うんです。「一緒に学んで、自分のことを自然に分かってくれた人もたくさんいるんだ」。そう思って、もう一度立ち直って歩み始めてくれると信じています。

正確な知識 教育必要

性同一性障害 数千人に1人

GID学会理事長で岡山大大学院の中塚幹也教授によると、GIDは数千人に1人の割合でいるとされる。岡山大が受診者に実施した調査では、性別に違和感を抱いた時期は小学校入学前が約6割、中学入学前が約8割だった。

中塚教授は「成長が進むほど、心と体が一致せず、苦しむようになる。まずは医療機関につなぎ、本人がどうしたいかを考えることが大切」と話す。

文部科学省が、2010年にGIDの子どもに配慮するよう通知を出し、教育現場での理解は徐々に進んでいるという。中塚教授は「チームをつくって学校全体で対応することが大切。ほかの子どもたちに打ち明ける場合は、事前に性についての正確な知識を伝えておく必要がある」と話す。

岐阜経済大（岐阜県大垣市）は10年度から、健康診断の証明書に性別を記載することをやめた。GIDの学生が就職活動で不利にならないようにするためだ。大学側は「性別をめぐる社会状況は変化している。当事者の気持ちを尊重した」と説明する。

（塩入彩）